

歯周病対策の新星「マスティック」

歯科医療の現場で高い評価

インタビュー／オーラルケア最前線

先生顔写真

(財)漢方医薬研究振興財団・常任理事

とつかグリーン歯科・医師

渡辺 秀司

マスティックと呼ばれるギリシャの生薬を配合した歯磨き粉やガムが、歯科医療の現場で使われ始めている。国民の8割が抱えるといわれる歯周病の改善に有効だと分かってきたからだ。マスティック製品を自らの歯科クリニックで治療に使い、成果を上げている歯科医師に、マスティックによるオーラルケアについて聞いた。

マスティックジェルペーストを取り扱うようになったきっかけから、お聞かせ下さい。

歯周病の治療に使えと思ったのが導入のきっかけです。われわれ歯科医療に携わる医師にとって、歯周病の治療はいまだに困難な課題です。

歯周病菌は、ほとんどの人の口腔内に棲んでいて、8割の人が歯周病を発症していると考えられています。歯周病は症状が進むと、歯茎が下がり、歯がぐらぐらして、最後には歯が抜けてしまう病気です。歯周病の人は、口腔内の悪玉菌が増えやすい環境なので、口臭のある人が多いようです。

歯周病患者に対して、従来の歯科医療は、正しいブラッシングや、歯石を取って口腔内を清潔に保つ、といった程度の指導しかできませんでした。これでは満足な治療とは言えません。

それでも症状が改善されない患者には、菌が溜まりやすい歯と歯茎の隙間（歯周ポケット）をなくすため、溝をクリーニングしたり、外科手術をするしかないのが現状なんです。

要するに患者には、よく歯を磨き、それでもだめなら手術するぐらいしか選択肢がないのですね。

そうです。ですから、そうした両極端の治療法の間、何か有効な治療法はないかと探していたのです。

市販のうがい薬などは、その中間的な治療法だと思いますが。

確かに、うがい薬はある意味で有効です。ですが、市販のうがい薬は、歯周病菌などの悪玉菌と一緒に、口の中の善玉菌まで殺菌してしまう場合がある年配者や体の弱い人に不向きなのです。それに市販のオーラルケア製品の多くは、効果に関する学術的な裏付け（エビデンス）の部分が弱く、医師の立場では使いづらいのです。

そんなとき、マスティックの練り歯磨きに出会いました。もともと私のクリニックでは口腔内の免疫を高めたり、悪玉菌だけを殺菌できるように漢方薬で調合されたうがい薬を患者さんに処方しています。さらに、特に毒性の強い歯周病菌だけを選択的に抗菌する力を持ったマスティックの練り歯磨きも併用するよう、患者さんに薦めているのです。

それらのマスティック製品を実際の診療に使っているのですか。

ええ。まず歯周病の患者さんには、マスティックの練り歯磨きと、漢方薬のうがい薬を処方します。もちろん口腔内の治療環境をよくすることを目的としています。

患者は自宅で夜寝るときにマスティックの歯磨きで歯を磨き、それを漢方のうがい薬ですすぐといった形でオーラルケアができるのです。寝ている間に粘膜より吸収されることで口腔環境はかなり改善されますし、治療効果も上がります。

患者さんの間でマスティックジェルやガムの評判はいかがですか。

口腔内には善玉、悪玉などさまざまな菌がいて、その環境は絶えず変化する可能性があります。ですから、歯周病菌のような悪玉菌が増えないよう、菌糞、つまり口腔内の菌のバランスを一定に保つことが、歯周病の抑制につながるんです。

それには、体そのものを元気にして、口腔内の免疫力を高めておくことも大切です。同時に、良い状態の唾液を保つことも大切なのです。

唾液は、老化やストレスの影響で分泌量が減ります。お年寄りや、緊張したときなど、口の中が渇くでしょう。すると、口腔内は悪玉菌が繁殖しやすい環境になってしまう。

ですから、マスティックガムには、マスティックの成分自体が持つ悪玉菌の殺菌力と同時に、ガムを噛むことによって、口腔内の菌バランスを良好に保ってくれる“良い状態の唾液”をたくさん分泌してくれる、2つの働きがあると言えるのです。